

1. 次世代の育成

【社会全体での子育て】

- 人手不足等による大人のゆとりのなさ
- 地域の現場における多様な主体の参画の必要性
- 生み育てやすさにつながる母親の不安解消
- 子育て支援制度を活用しやすい周囲（職場）の理解
- 高齢者とこどもの相互交流によるお互いの楽しみづくり

【社会全体での教育】

- 地域や企業の活力を取り入れた学校運営の必要性
- 地域づくりにもつながる積極的なこどもの意見聴取
- 多様な人材とこどもの積極的な関わりを生かした教育
- 児童・生徒・学生のステージに応じたサポート

2. あらゆる人が活躍できる 多様性に富んだ社会づくり

【一人ひとりが活躍できる社会】

- 障がい者への合理的配慮の浸透が課題
- 制度が充実する一方、障がいの有無による分断の顕在化
- 一方的な支援ではなく、相互に支え合える関係性の構築
- 障がいの有無や年齢、国籍など、色々な人とつながり・交流を深めながら、地域の将来を議論する必要
- 幼少期からのインクルーシブな教育

【外国人との共生】

- 現状、外国人に対する差別や偏見も実感
- 交流会などを通じ、互いの文化を理解することが重要
- 外国籍のこどもに対する日本語支援や情報提供の充実

- ① 本県の将来を担う次世代を育成するため、保護者以外にも地域や企業の手を取り込み、社会全体で子育て・教育に取り組む機運を醸成することが必要
- ② 国籍や性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる人が一人ひとり生き生きと活躍できる環境づくりが必要

専門部会での議論について (2) 「暮らし」づくり部会

1. 中山間地域などにおけるくらしの維持

【地域住民の考え】

- 生まれ育った地域に住み続けたい
- みんなで一緒に将来を考えることが大事
- 縮小していく覚悟、前向きな勇気が必要
- 住民の不安の共有や当事者意識の醸成が必要

【生活サービスの確保】

- バス、タクシー、デマンドバスなどの 移動手段確保
- 選ばれる地域 となるため、道路等インフラが必要

【行政機能の維持】

- 地域の実情に応じて、他自治体と連携 する必要
- 人口減少下での施設管理は、利用面での工夫 が必要

2. 希望するライフスタイル（くらし）が実現できる魅力的な街・地域づくり

【多様な価値観】

- 新型コロナを契機に二拠点生活や移住が増加
- 地域住民同士の つながりが希薄化
- 個性が大事 にされる社会の必要性

【人口流出】

- 地元に戻る動機となる 魅力的なまちづくり の必要性
- 多様な意見が受け入れられ、相互理解が進む環境づくり

【宮崎の強み・魅力】

- 暖かい気候・人、人とのつながり、混雑しない暮らし
- 自然、文化、スポーツなど、本県ならではの様々な分野を掛け合わせた魅力の発信

- ① 住民の日常生活に不可欠な機能やサービスを相互に補完・連携する仕組みを構築し、縮小する人口規模に適応した持続可能な地域社会の確立が必要
- ② 本県の強みである文化やスポーツ環境など、地域資源を生かした賑わいのある地域づくり に取り組むことが必要

議論の ポイント

専門部会での議論について (3) 「産業」づくり部会

1. 産業人材不足への対応

【デジタル化・DX】

- 未着手の事業者支援のため、専門家と連携した対応
- AI活用に向けた正しい知識の広報やリテラシー向上

【多様な人材の確保】

- リモートワークをはじめ柔軟な働き方の拡大
- 意欲ある子育て世代、高齢者が希望どおり働ける環境整備
- 外国人材は宮崎に魅力を感じている
他方、長く働いてもらうためには、選ばれる工夫が必要

【その他】

- 事業承継への対応や森林の集約化など、人口減少社会に適応した取組を進めることが必要

2. 投資を呼び込む地域産業づくり

【農林水産業・フードビジネス】

- 第一次産業の「稼ぐ力」の強化と賃上げの実現
- 人口が増加する海外への販路拡大

【企業支援等】

- 新ビジネスやイノベーション創出に向けた更なる産学官連携体制の強化
- 中核企業の育成や地場産業の底上げが重要
- 再生エネルギーなど、宮崎の特長を生かした企業誘致

【観光】

- 地域の魅力が伝わる体験・着地型商品の充実
- 閑散期における宿泊施設の稼働率向上
- 国スポ施設等を生かしたスポーツの聖地化

議論の ポイント

- ① DXによる生産性向上や多様な人材の活用に加え、海外への販路拡大や中核企業の育成等により、持続的成長が可能な産業構造への転換が必要
- ② 本県の基幹産業である農林水産業の「稼ぐ」力の強化に加え、外貨を稼ぐためスポーツ観光の更なる振興や閑散期における対策が必要